

2024年（令和6年）年3月16日

「日本の死刑制度について考える懇話会」御中

殺人事件被害者遺族の会（宙<sup>そら</sup>の会）

会 長 小林 賢二

代表幹事 高羽 悟

（他 宙の会 遺族一同）

### 提 言 書

～死刑制度存置は国民の総意～

先日（2月29日）、貴会の設立を報道で知りました。日本弁護士連合会（以下：日弁連）が事務局とのことですので、2016年（平成28年）10月7日に発表した「死刑制度廃止宣言」の延長線上の話と推察しております。

そもそも廃止宣言については、日弁連内においても「死刑制度存置弁護士」グループが存在し、宣言決議について総意ではないと伺っております。

私たち「殺人事件被害者遺族の会：宙の会」（以下：宙の会）は、私たちと同じ遺族になって欲しくないという趣意から、まずは未解決事件の解決に向けた取組み等を推進しております。

今回の設立報道に関しては、「またか？」という思いが率直な感想です。

「またか？」の根底には

- ① 国民の8割を超える「死刑制度やむなし」世論を尊重していない
- ② 日弁連元副会長の岡村勲氏のように、わが身に立たされた時の被害者感情を重んじていない
- ③ かけがえのない命を奪った場合、どのように償うのか（刑事罰・損害賠償）について、実効性伴う法制度論議を避けている

という思いを抱いております。

また、報道によれば、懇話会メンバーは、国会議員、元警察長官、前検事総長ら計16人。そして、海外の情勢など広いテーマで議論を経て提言に反映させる。との発足ですが、日弁連の死刑制度に替わる「終身拘禁刑」導入に至る